

鳥取県言語聴覚士会 研修会のお知らせ（小児部主催）

小児期から成人期まで、構音障害や嚥下障害など、口腔機能の評価が必要な場面は多いと思います。今回の研修会では、様々な年代の口腔機能について学び、日々の臨床における観察力をさらに高める機会になればと思います。

オンラインの勉強会ですので、成人・小児の領域を問わず、鳥取・島根両県の皆様のご参加をお待ちしています。また、言語聴覚士以外の職種の方もご参加いただけます。

ご多用の折ではありますが、皆様のご出席を賜りますよう、ご案内いたします。

【日時】2023年1月22日（日） 10:00～12:00

【会場】オンライン会場（Google Meet）

【申し込み方法】下記 URL、または右の QR コードよりお申し込みください。

<https://forms.gle/BjhVXFJcrzP6onX28>

※Gmail アドレスで登録をお願いします。

【申し込み締め切り】2023年1月13日（金）

【問い合わせ】メール：tottorist.syoni@gmail.com（小児部 松田）

QR コード



赤ちゃん、高齢者、そして私たちの口腔機能 ～助産師と言語聴覚士による赤ちゃん歯科臨床から見えること～

日本の子どもの30.7%は、日常的に「お口ぼかん」という報告が2021年にされました。3歳の時点で約20%の子どもが「お口ぼかん」という状態です。本来、私たちが獲得している口腔機能には幅があるものですが、様々な機能を獲得する時期にある乳幼児を観察していると、明らかな疾患がない群でも、口腔機能の獲得に支援を要するケースが少なくありません。なかには新生児、乳児の時点で嚔声がある場合もあります。そういった乳幼児の口腔周囲筋の特徴は、学齢期の子たちにも同様に観察され、また20代の言語聴覚士にも観察される場合があります。今回は、実際に乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期、様々な年代の方の口腔周囲筋の写真を紹介し、改めて私たち自身が獲得している口腔機能についてもアセスメントしてみましよう。

【講師】 奥住啓祐 先生（言語聴覚士 SEO財団 保健福祉部 課長）

●現在の業務

介護事業所の運営指導、内部監査、介護施設（認知症対応型共同生活介護）の第三者評価、ケアプラン点検、要介護認定に関するデータ分析、研修制作（認定調査・審査会等）ほか

●現在の臨床

多職種と連携し、福岡・熊本の4つの歯科医院で妊婦～乳幼児等の個別ケアを助産師と一緒に実施。

●その他の活動

子どもの発達支援を考えるSTの会 運営委員

雑誌「小児リハビリテーション」 編集委員